特集 英語を使う技能の育成

こうやってはどうでしょう？「話す活動・聞く活動」

見上　晃（拓殖大学）

話す活動　DO IT ー TALK

英作文は英借文というのがある。これは英作文にだけ当てはまるのではない。英会話でも，英語聴解でも真似をするというのは学習の第一歩である。そこで，話す活動ではまず真似をすることを考えよう。

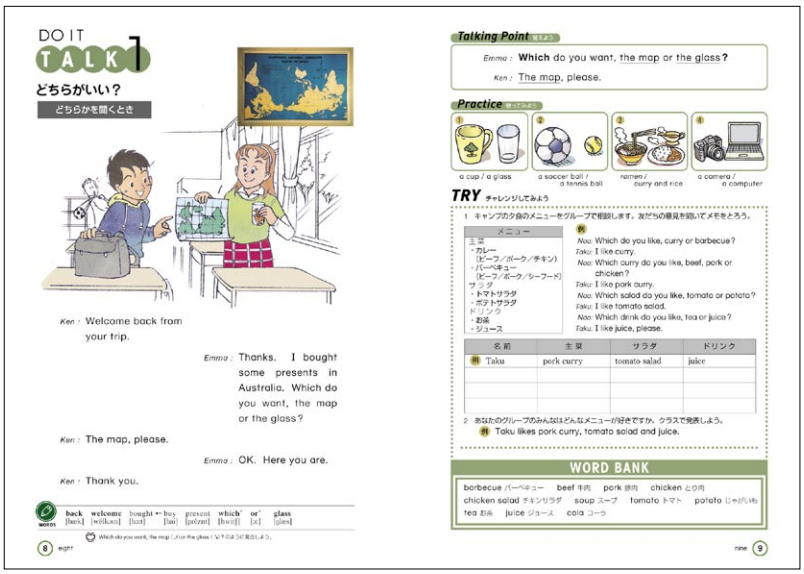
自分の言いたいことを言うためには，教科書の基本文を使った機械的な練習に加えて，基本文を使ったコミュニカティブな練習が必要である。さらに場面などに合わせて自分の言いたいことを言う練習が必要となる。この場面に合った練習をするには *NEW CROWN*（以後 *NC*）の DO IT ー TALK が最適である。中学生に必要な場面を網羅した練習ができるようになっているからである。

NC の DO IT ー TALK シリーズでは，現行版の *NC* と同様に，学習する会話が発話者によって右左に分けて書かれている。これは自分の台詞だけを隠して活動を練習するためだが，会話が右左に分かれていることで「会話のキャッチボール」が理解しやすい。1 人で話すのではなく 2 人が交互に話していく「流れ」があることが理解できる。

TALK 本文の会話を使って練習をするには，まず発音などで問題がないかをチェックするだろう。生徒が家庭で予習する場合に特に注意しなければいけないイントネーションなどの注意はページ下の口のマークの「サウンドアドバイス」が参考になる。

NC では TALK 本文のポイント文を抜き出して練習できるようになっている。これをマスターすれば最小限の会話知識が身につく。たとえば下の DO IT ー TALK 1 を見てみよう。ここのポイント文は Talking Point に抜き出されている Which do you want, ～ or … ？　である。教科書では～や … の部分に下線が引かれているのでわかりやすい。クラスの 3 分の 1 くらいに言わせてみよう。もちろんイントネーションを含めて間違えていたら訂正をする。次に Practice にある既習の単語を使って置きかえ練習ができる。ここでは置きかえる単語が絵で示されているので，意味が理解しやすい。最初は教科書を見ながら順番に置きかえていける。

力のある生徒がいる場合は自前でいくつかの置きかえのできる単語を用意しておくとよい。さらに力のある生徒のためには元の動詞 want の部分を別の動詞に置きかえて使えるものも準備しておくとよ



い。like で好みを聞いたり watch でテレビ番組を聞いたりすることができる。

聞く活動　DO IT ― LISTEN

次に英語聴解であるが，これは全体像をつかんでから詳細に入ることが大事である。*NC* の DO IT ― LISTEN では「全体から詳細へ」が自然に身につくようになっている。また英文の長さも 1 年から次第に長くなっていくし，聞き取る内容も学年を追って高度になっていくつくりである。自然に易から難のステップで学習できる。

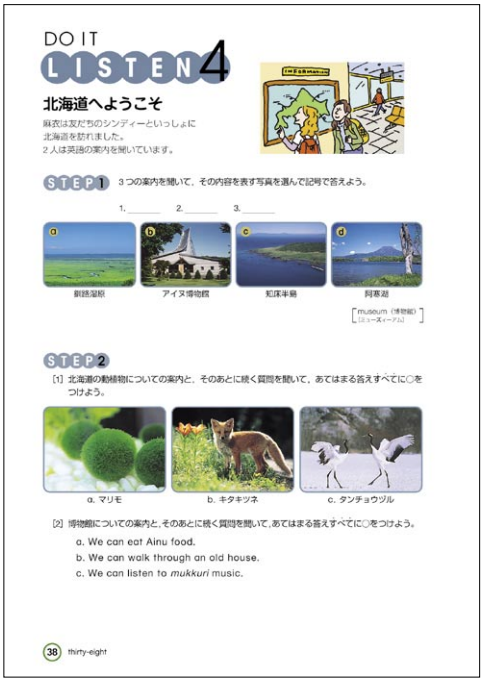
たとえば右の DO IT ― LISTEN 4 を見てみよう。教科書は 2 つのステップに分かれている。

最初の STEP 1 では全体の内容を大づかみにとらえることを目標にする。授業では，まず未習語や，既習であっても耳から聞いて分かりにくい単語や句について説明をする。生徒の実状に合わせて意味と発音を確認しておく。

次に教科書の 4 枚の写真を見せてどんな単語が使われるか想像させてみよう。リスニングの大きな要素は「予想」である。生徒から単語を 1 つずつ挙げてもらうとよいだろう。当然，内容的に近いものが出てくるだろう。それぞれの絵を黒板に張りその下に想像させた単語を書いていく。力のある生徒ならさらにそれらの単語を使って作文させたり，内容について予想をさせたりしてもよい。

それができたら実際に英文を聞いてみる。だいたいどんな内容なのかを何人かの生徒に聞いてみる。また予想した内容と違っているところを聞いてみる。詳細はこれからやるのですべてに答えられなくてもよいし，場合によっては「やまかん」で答えさせてもよい。内容についての意見が出尽くしたら答えを考えてもらう。それぞれの英文がどの絵にあたるのかを聞く。もし生徒の間で答えが違うのであれば，違いをはっきりさせておいて再度英文を聞く。答えは教科書の該当部分に a, b, c, d で記入させる。

次に STEP 2 では詳細を聞き取ることを目標とする。STEP 1 で使った英文の一部を聞かせ，それぞれの質問に答えさせる。[1] は「どんな動植物がそれぞれの場所にいるか」の答えを聞き取らせよう。動物については fox, crane が出てくるのでこれらが


DO IT
LISTEN 4

北海道へようこそ

麻衣は友だちのシンディーといっしょに北海道を訪れました。
2人は英語の案内を聞いています。

STEP 1　3つの案内を聞いて，その内容を表す写真を選んで記号で答えよう。

1. ____　2. ____　3. ____

a 釧路湿原　b アイヌ博物館　c 知床半島　d 阿寒湖

[museum（博物館）]

STEP 2

[1] 北海道の動植物についての案内と，そのあとに続く質問を聞いて，あてはまる答えすべてに○をつけよう。

a. マリモ　b. キタキツネ　c. タンチョウヅル

[2] 博物館についての案内と，そのあとに続く質問を聞いて，あてはまる答えすべてに○をつけよう。

a. We can eat Ainu food.
b. We can walk through an old house.
c. We can listen to *mukkuri* music.

38 thirty-eight

答えとなる。必要な情報だけを抽出できるようにする。

さらに [2] では「博物館では何ができるか」という問いが用意されている。

ここまでの練習は教科書に従っていけばすべてできるように作られている。

全部の問題が終わったらもう一度細部にわたって聞き取れているか聞いてみよう。たとえば，「まりもの成長についてどう言っているか，すぐ大きくなるか，だんだん大きくなるか」といって実際の英文で聞き取ってもらう，「湖をいつ訪ねるように言っているか」具体的な英文を聞き取ってもらう，などである。できるだけ 1 つの質問に 1 回は英文を聞かせるようにする。各質問は何回も英文を聞かせるための手段である。この質問は日本語で与えてかまわない。

生徒に具体的な目標としてある質問をしてその答えを探すために英文を聞く。これが効果的なので，同じ英文を繰り返し聞かせる工夫をすることが大切である。質問をしたりクイズをしたりして何回も聞かせる方法を考えてはどうだろうか。耳に音が残るほど聞けば，同じような内容の聞き取りが容易になると思われる。*NC* の DO IT を使って簡単で効果的な授業を組み立ててみてはいかがだろうか。